

四. 塔頂部 尊敬の儀式



午後4時、大長老のお導きに従って、シェーダゴンパゴダ形仏塔・塔頂部尊敬の儀式が執り行われました。その後、大長老は、護経の聖水 (Paritta) を最重要塔頂部と Satta thāna 仏像にかけられました。

～ 最重要塔頂部・Satta thāna 仏像を 両手で捧げ持ち 浄心庵戒壇へ



五. 最重要塔頂部 ご供養の儀式



午後5時、浄心庵戒壇正面において、大長老のお導きに従って、浄心庵戒壇屋上にご安置するためにお釈迦さまの徳と恩を念じて最重要塔頂部ご供養の儀式が執り行われました。

六. 回向の儀式



午後6時、浄心庵戒壇内に入り、大長老のご先導で、日本上座仏教修道会、浄心庵精舎の大きな功德と、ミャンマー人・日本人、関係がある皆さまの行われたすべての功德を回向して、随喜いたしました。最後に、パーリ言葉「Buddha sāsanaṃ ciraṃ tiṭṭhatu. (お釈迦さまの教えがなくならないで永く存在できますように)」を念じ唱和してその日の儀式はすべて無事終了し、大変吉祥な日となりました。

～ 三宝と大長老の徳とご恩を念じて ～



シェーダゴンパゴダ形仏塔が浄心庵精舎に到着するまでの約一年半、大長老は、関係があるミャンマー人の主なる方々と連絡をお取りになり、日本上陸が成功するように、諸々の準備を重ねられてまいりました。

浄心庵精舎では、大長老のご指示に従って、ご相談いただきながら、ミャンマーと日本間での事務手続きをはじめとして、日本上陸後の安置場所の土地の整備や運搬・輸送などの手続きを行ってまいりました。

運搬方法、到着後の配置場所・設置などについては、設計・監理/株式会社入江三宅設計事務所様、施工/常総開発工業株式会社様の皆さまにご相談いたしました。

通関業務、港湾運送、陸上輸送・海上輸送、保管などに関しましては、ミャンマー国から、大長老の篤信な優婆塞・優婆夷によってご手配をいただいた Rhenus Sankyō Logistics K.K. 三協レイノス株式会社様がすべての手続きを代行してくださいました。業務以外にも写真提供の協力をしていただきました。

すべては、三宝と大長老の大いなる慈悲と智慧と共に、大徳とご恩によって、ミャンマーの皆さまが、日本上陸の際に困らないようにと綿密なご配慮と、取り計らいをいただきました。

このように、シェーダゴンパゴダ形仏塔が日本浄心庵到着に至るまでに、国内外の多くの皆さまに、当会の大プロジェクトに携わっていただきました。

三宝と大長老をはじめとして、ミャンマー・日本の関係がある皆さま、今回ご協力いただきました企業の皆さまのお力添えのおかげと謹んで感謝申し上げます。皆さまの功德に随喜申し上げます。

今年2022年9月～10月の間、ミャンマーから専門職人をご招待して、浄心庵戒壇屋上に奉納ご安置する予定です。

引き続き、大プロジェクトの完成を目指して最善を尽くしてまいります。

祝 朗 報

浄心庵・瞑想堂から「シェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠と最重要塔頂部」を
浄心庵戒壇(Simā)二階へ右回りでお運びする儀式

(当会/浄心庵 FB 公開中)



2021年12月30日(木)午後4時、浄心庵精舎において、三宝の大導師バツダンタ・ニャヌッタラ大長老のご先導で、「浄心庵・瞑想堂からシェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠と最重要塔頂部を浄心庵戒壇(Simā)二階へ右回りでお運びする儀式」が、年末年始10日間宿泊瞑想会の初日に執り行われました。

一. 三宝と浄心庵仏陀へご供養の儀式



午後4時、浄心庵・瞑想堂において、お釈迦さまの徳と恩を念じて、三宝と浄心庵仏陀に、ミャンマーからご奉送された「シェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠と最重要塔頂部」をはじめとして、「Satta thāna 仏像」をご供養する儀式が厳かに執り行われ、18名が参列いたしました。

大長老のお導きの下、ナモータッサ礼拝を唱え、三帰依と八戒を授かり、戒清浄になった上で、最重要塔頂部(ダイヤモンドのつぼみ)をそれぞれが捧げ持ち、浄心庵仏陀と三宝を代表する大長老にご供養いたしました。お一人お一人に大長老よりご祝福を賜りました。

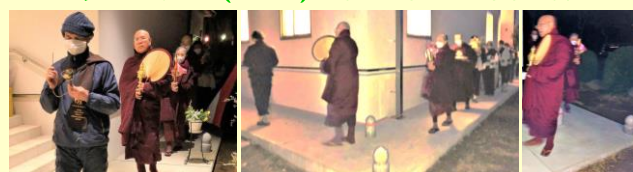


二. 浄心庵・瞑想堂から「シェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠と最重要塔頂部」を 浄心庵戒壇(Simā)二階へ右回りでお運びする儀式



午後5時、浄心庵・瞑想堂から「シェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠と最重要塔頂部・Satta thāna 仏像」を三宝の徳と恩を念じて両手で捧げ持ちながら浄心庵戒壇(Simā)二階へ右回りでお運びする儀式が執り行われました。

～ 浄心庵戒壇(Simā)を右回りに三度巡拝 ～



浄心庵戒壇内に入場前に、大長老のお導きに従って、戒壇建物の内結界と外結界の間を三宝の徳と恩を念誦しながら尊敬して右回りに三度巡拝した後、戒壇内に入りました。



シェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠

～ 浄心庵戒壇 入場 ～



～ 一階から二階へ ～



それぞれが両手で捧げ持ちながら三宝を念じてお運びした仏塔上部は、鄭重に三宝を代表される大長老へご供養し、浄心庵仏像と三宝を目指して、仏壇に奉納ご安置されました。



最重要塔頂部のダイヤモンドのつばみは、特別に一人の手から手へと、三宝を念じて尊敬して大長老のお手に捧げ渡され、大長老によってすべてがご安置されました。

三. 最重要塔頂部 ご供養の儀式



午後5時30分、浄心庵戒壇(Sima)二階において、お釈迦さまの徳と恩を念じて、三宝と浄心庵戒壇(Simā)に、ミャンマーからご奉送された「シェーダゴンパゴダ形仏塔上部・傘の冠と最重要塔頂部」をはじめとして、「Satta ṭhana 仏像」をご供養する儀式が執り行われました。

四. 回向の儀式



午後5時45分、この日行われたすべての功德について大長老よりご祝福を賜わり儀式が無事に終了いたしました。つづけて年末年始10日間宿泊瞑想会がめでたく開式されました。(P14 参照)



当会は大プロジェクトの完遂を目指して、最善を尽くしてまいります。皆さまのご支援・応援何卒お願いいたします。